

## 九州・山口地域における藻場の変動に関する基礎的研究

|       |                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese                                                                                        |
|       | 出版者: 水産総合研究センター                                                                                     |
|       | 公開日: 2024-06-24                                                                                     |
|       | キーワード (Ja):                                                                                         |
|       | キーワード (En):                                                                                         |
|       | 作成者: 吉村, 拓, 清本, 節夫                                                                                  |
|       | メールアドレス:                                                                                            |
| URL   | 所属:                                                                                                 |
|       | <a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008591">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008591</a> |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 巻頭言

### —かなめ—

西海区水産研究所長 井上 潔

今、九州・山口地域の水産業の現状をみるに、東シナ海の主要漁業である旋網漁業や以西底曳網漁業の生産量の低迷、沿岸域では藻場の荒廃等による磯根資源の減少、あるいは有明海・八代海における二枚貝類をはじめとする各種漁業の不振など、解決すべき問題が数多くあります。

一方、西海区水産研究所はもとより、大学、公設試験研究機関を取り巻く環境は年々厳しくなっています。組織の合理化や予算・人員の削減等の加速度が増す中、現状を打破し、地域の水産業の発展に貢献するには、それぞれの機関が個々に対応するのではなく、地域の大学、民間、公設試験研究機関がそれぞれもっている得意な能力や技術など、智慧と汗を結集した連携・協力が不可欠と言えましょう。

西海区水産研究所は、東シナ海の水産資源を研究する機関として昭和24年に設立され、今日に至るまで、わが国の水産生物の揺籃の場である東シナ海の海洋環境や水産資源に関する調査研究に重要な役割を果たしてきました。その一方で、足下の沿岸域についての対応が十分で

あったかといえ、反省せざるを得ない点が多いことも事実です。九州・山口沿岸域におけるここ数年来の水産業を取り巻く諸問題が看過できない状況にあって、私たちは、これまでどおり東シナ海の資源研究所としての役割を果たし続けることは無論のこと、今後は沿岸域の調査研究についてもさらに強化することを目指しています。

水産総合研究センター第2期中期計画の序文において、私たちは水産基本法の理念である「水産物の安定供給の確保」と「水産業の健全な発展」の実現に向けて、科学技術的側面から積極的に貢献することを掲げ、その具体的行動として、大学、地方公共団体、民間組織との連携・協力を図りつつ、研究開発の水準を着実に向上させることを謳っています。九州・山口地域の水産研究の連携・協力の拠点として「扇の要」の役割を果たす。そのことによって微力ながら地域水産業の発展に寄与することができれば、それは私たち西海区水産研究所にとって大きな喜びです。

## 研究前線

### —九州・山口地域における藻場の変動に関する基礎的研究—

海区水産業研究部沿岸資源研究室 吉村 拓  
資源培養研究室 清本 節夫

近年、九州中南部の沿岸各地における生育確認例が増えている南方系（暖海性）ホンダワラ類は、分類学的検討が遅れている。様々な研究の発展には、分類に準ずる基準作りが急務である。そこで、分類学や海藻の専門家らとともに、長崎市地先に分布する海藻類を対象とした暫定的な分類基準を作成した。

長崎市地先で潜水調査を行い、南方系ホンダワラ類の生育環境を調べるとともに、標本を採

取した。沖縄県から鹿児島県に分布する南方系種の分類基準を参考に、それらの形態や生態情報に基づいた識別を試みた。種の査定が困難なものは、タイプとして分類した。

この結果、在来種ではないホンダワラ類4種（稀産種1種、南方系種3種）が同定され、既存の分類基準に該当しない6つのタイプが識別された（表1）。

これらの海藻類は、在来種に比べて背丈の短

いものが多く、光を巡る競争において本来は不利であろう。近年、高水温や藻食魚の食害発生によって海藻が減少あるいは長く伸びず、この競争関係がなくなったり変化した場所の増えたことが、南方系ホンダワラ類の分布拡大の一因

と考えられる。

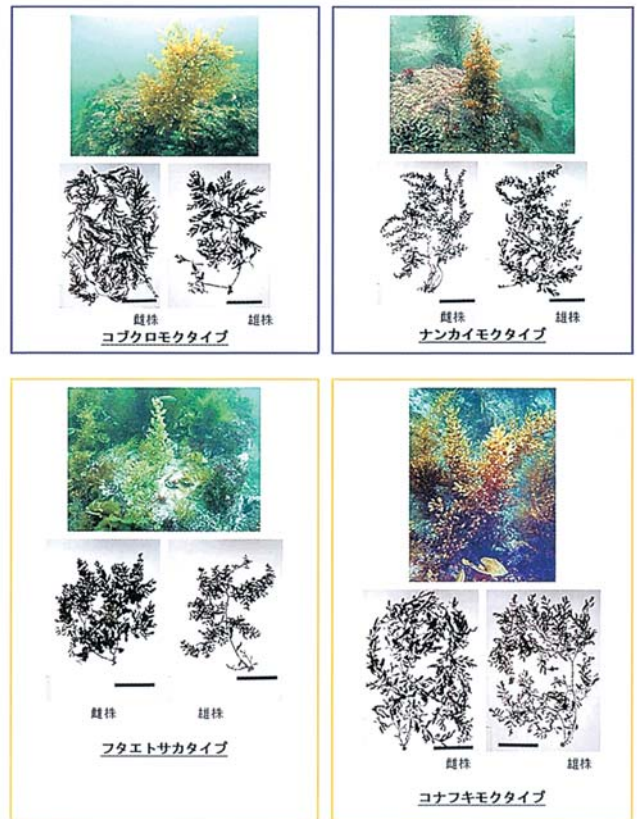
これらの成果は、西海区水産研究所のHP (<http://snf.fra.affrc.go.jp/>) にて公開している(図1)。今後の研究や情報交換等を通じて、より広域に適用できる基準にしていく予定である。

## 長崎市見崎町地先に出現するホンダワラ属の写真集

※各ボタンをクリックすると、さらに詳しい情報や細部写真のページに進みます。  
 →[南方系ホンダワラ類とは]に戻る →[分類チャート]に戻る →[記事の先頭]に戻る

表1. 見崎町地先における南方系ホンダワラ類の分類チャート

|                                                       |           |
|-------------------------------------------------------|-----------|
| 1. 藻体下部の葉や枝が下部方向に反曲して生じ、葉の縁辺の鋸歯は葉の中肋に達する……………         | ウスバモク     |
| 1. 藻体下部の葉や枝が上もしくは横方向に生じる……………                         | 2. ハ      |
| 2. 付着器から生じる主枝には刺があり、葉は又状に数回分枝するものもある……………             | クレバモク     |
| (又状に分枝する葉に、縞状の濃淡模様がある)……………                           | クレバモクタイプ  |
| 2. 付着器から生じる主枝の表面は滑らかである……………                          | 3. ハ      |
| 3. 生殖器官は雌雄同株である……………                                  | 4. ハ      |
| 3. 生殖器官は雌雄異株である……………                                  | 6. ハ      |
| 4. 主枝は細く滑らかで、藻体は60cm以上になる……………                        | 5. ハ      |
| 4. 主枝は滑らかかゴツゴツと隆起し、まれに刺を生じる……………                      | ツクシモクタイプ  |
| 5. 藻体は細く柔らかく、1m以上になる場合がある……………                        | マジリモク     |
| 5. 藻体は数十cmで、1m以上にならない……………                            | シマウラモク    |
| 6. 葉は披針形(葉柄に近い部分の幅が最も広い)で先端は尖り、縁辺は波打ち鋸歯がある……………       | コブクロモクタイプ |
| 6. 葉はヘラ形(先端近くの幅が最も広い)から長楕円形(中央付近の幅が最も広い)で先端は尖らない…………… | 7. ハ      |
| 7. 藻体下部の葉の質感が厚く、縁辺にはあまり鋸歯がない……………                     | コナフキモクタイプ |
| 7. 葉の縁辺には鋭い鋸歯が並び、葉の先が杯状に分岐する場合もある……………                | 8. ハ      |
| 8. 葉の質感が薄く小さく、側枝がよく発達する……………                          | ナンカイモクタイプ |
| 8. 葉の質感が厚く鋸歯が鋭く発達し、側枝は短い……………                         | フタエトサカタイプ |



→[南方系ホンダワラ類とは]に戻る →[分類チャート]に戻る →[記事の先頭]に戻る

(c) Copyright Seikai National Fisheries Research Institute, Fisheries Research Agency All rights reserved.

図1. HP 公開資料の抜粋

## うぶすな

## —東シナ海・黄海の水産資源—

東シナ海漁業資源部長 時村 宗春

「うぶすな」とは、漢字で書けば「産土」です。「生まれた土地」という意味ですが、日々調査を行っている東シナ海に敬意を表して、このコラムの名前に採用しました。東シナ海は、実に多様な魚が生息する海域です。当部の依田真里研究員が、過去の調査結果を洗って勘定したと

ころ、1100種以上のリストになりました。もちろん、山田梅芳という魚を見分ける名人が、40年間も執念深く研究したという裏事情もありますが、魚の種類が多いのは事実です。色とりどりの魚の棲む亜熱帯水域(琉球列島周辺)から、マダラやニシンが棲む冷たい水域(黄海)、